日本大學農獣醫學部校友會々報

発行所
日本大学農獣医学部
校友会
編集発行者
会報発行委員会
印刷所
東京商工KK

校友会創立40周年

記念式典と祝賀パーティー

京王プラザホテルで盛大に

校友会から農獣医学部へ　記念品贈呈、功労者表彰も

式辞を述べる庄川洋一会長

農獣医学部校友会は、本年創立四〇周年を迎えた。この間発展の一途を辿り、正会員（卒業生）総数五万二千余名、準会員（在学生）八千余名を擁する一大組織になった。

校友会創立四〇周年を祝う式典と祝賀パーティーが、七月九日（土）東京・新宿の京王プラザホテル錦の間に多数の来賓（八三名）と校友（三三六名）が全国から集い盛大に開催された。

記念式典は、高坂事務局長の司会で、校友会関係物故者の御霊に対し黙祷を捧げ、茂沢副会長が開式を宣言、庄川会長の式辞につづいて、校友会より農獣医学部へ記念品が贈呈された。

ついで校友会の発展に尽力された歴代会長、副会長、事務局長十四名を功労者として表彰し、感謝状と記念品が授与された。

最後に日本大学を代表して中山政夫副総長（法学部長）、学部を代表して門田定美農獣医学部長が御祝辞を述べられ、野田副会長の閉式の辞をもって厳粛な式典を終了し、祝賀会へ移った。

祝賀会は、一川副会長の開会、日本大学校友会本部、久恒真佐夫事務局長の祝辞のあと、久本田賢志前農獣医学部長（前校友会名誉会長）の長年の御労苦に対し、ねぎらいの意をこめた花束が贈呈され、先生の謝意と御発声で記念すべき祝宴の盃が高々と捧げられ開宴となった。

祝賀会の最後は、第三期生の三木敏夫雪印バーラー社長（学生時代応援団長）をリーダーに日本大学校歌を声高らかに斉唱し、四〇周年記念事業委員長佐藤弘一前会長の音頭で万歳を三唱し、次の節目である五〇周年に向け、さらなる発展のため努力することを誓いあって散会した。

帰りには記念事業の一環として作成された、創立記念芳名録と校友会四〇年略史が、参会者全員に記念品として贈呈された。

名簿の残部が若干あり、希望者に送料込み五千円で頒布しておりますので、事務局へお申込み下さい。

（高坂記）

校友会から学部へ40周年の記念品を贈呈

学部長の就任に際して

農獣医学部長　門田　定美

農獣医学部校友会が充実発展の一途をたどっておりますことは、先般の四〇周年記念式典の盛挙にみられますとおり、多言を要しません。まことに欣快に堪えないところであります。

私は去る三月学部長を拝命いたし、教職員を初め関係者各位の絶大なご支援を蒙き、多端な業務の遂行もようやく緒について参りました。もとよりその施策の基盤はこれまで進められてきた学園の活性化と明るい雰囲気の醸成にありますが、就任以来、今後の重要施策として、①教育研究環境の整備・拡充とその活性化、②国際化への多面的対応、③多様化社会における個性重視教育の推進、④地域社会との交流・協調の四項目を考えております。このような中で、今学部としては当面の課題として入試制度・大学院課程の見直し、あるいは農場の在り方などについて具体的方向の検討も進めております。

ご高承のように近時農学系を取り巻く環境は厳しさを増しております。わが学部といたしましては、このような時代の推移を見極め、しかも二十一世紀を展望した将来計画の中で慎重に進められなければなりません。例えば、現在、新図書館棟の建設構想が進んでおりますが、これは真に高度情報社会にふさわしい学問の殿堂を企図し、オテクノロジー関係など、先端技術研究の可能な研究農場の創設を指向し考えられているものであります。さらに人間形成に大きくかかわりをもつサークル活動を一層活性化するためのサークル棟も必須の教育施設としてぜひ実現したいと考えております。ただ如何にすばらしい構想でありましても、その組織構成員の熱い意欲、積極的な協力なくしてはどうして成就をみることはできません。もちろん教職員各位にはお願いして参るつもりですが、校友各位の積極的なご参画・ご助力がぜひ必要であります。今後ともご指導・ご鞭撻を賜わりますようお願い申し上げます。

終りに校友諸兄諸姉のご健勝並びにご活躍と校友会のますますのご隆盛を祈念いたしております。

門田教授　学部長に

農獣医学部新体制で発足

久本田賢志教授の学部長任期満了に伴い昭和六十三年三月二十一日付で門田定美教授が新学部長に就任した。これにより学部運営は次のような清新な執行部により図られることとなった。

（敬称略）

【学部長】門田定美（六十八才）教授　水産学科　日本大学農学部水産学科卒　農学博士
担当科目　海洋学
【事務局長】森　保（六十九才）日本大学経済学部経済学科卒　前日本大学財務部長
【学部担当】松坂泰明（六十五才）教授　農芸化学科　東京帝国大学農学部畜産学科卒　農学博士
担当科目　林業経済学
【研究担当】露木英男（六十一才）教授　食品工学科　日本大学農学部農学科（農産製造学専攻）卒　農学博士
担当科目　食品理化学
【広報担当】今井　清（五十七才）教授　畜産学科　東京大学農学部畜産学科卒　農学博士
担当科目　家畜繁殖学
【学生担当】野村　勇（六十三才）教授　林学科　九州大学農学部林学科卒　農学博士
担当科目　土壌学
【就職指導担当】佐久間勇次（六十四才）教授　獣医学科　九州帝国大学農学部畜産学科卒　農学博士
担当科目　獣医生理学
【事務局次長】小笠原裏二（五十九才）日本大学文学部教育学科卒　前日本大学法学部経理長　※昭和六十三年七月八日付着任
【事務長】小関芳朗（五十五才）日本大学法学部政経学科卒　前日本大学就職課長
【事務長（農沢校舎担当）】渡辺　操（五十六才）日本大学文学部国文学科卒　前日本大学理工学部学生課長
【経理長】松浦高徳（五十九才）日本大学芸術学部演劇学科卒　前日本大学芸術学部経理長

学部事務局の人事異動

昭和六十三年七月八日付本部人事異動に伴い事務局次長に小笠原裏二法学部経理長、学生課長に高草芳久本部情報処理課長補佐が任命され、同時に鶴中得三学生課長が併設高校である鶴ヶ丘高等学校事務課長（事務長待遇）に、山内二夫鶴ヶ丘高等学校事務課長が図書館事務課長として所属替えとなり又、伊藤進事務局次長が文理学部事務局次長に、羽山正一教務課長が明誠高等学校経理長に任命され転属になった。

日本大学農獣医学部校友会役員

農獣医学部長　名誉会長　門田　定美
会長　庄川　洋一（拓植）
副会長　広報担当　茂澤　昊（農化）
副会長　渉外担当　一川　宏也（農工）
副会長　会計担当　野田　義人（食工）
理事　西鳥羽　曜（農学）
〃　宮浦　敏麿（農学）
〃　坪木　良雄（農学）
〃　江刺　琢磨（農化）
〃　木嶋　弘倫（農化）
〃　田中　延吉（獣医）
〃　日比野次郎（獣医）
〃　白井　弥（獣医）
〃　倉田　裕司（畜産）
〃　大橋　昭也（畜産）
〃　中西　五十（畜産）
〃　佐藤　弘一（食経）
〃　三木　敏夫（食経）
〃　伊豫　軍記（食経）
〃　鹿野　忠（林学）
〃　片岡　寛純（林学）
〃　大川富士雄（林学）
〃　添田　秀男（水産）
〃　日野　演彦（水産）
〃　奥本　直人（水産）
〃　吉川　宏一（農工）
〃　辻　厚志（農工）
〃　中村　清一（食工）
〃　青井　幸雄（食工）
〃　岡田　正男（拓植）
〃　木村　正之（拓植）
〃　冨沢　寿樹（短農）
〃　山本　正義（短農）
〃　斎藤　忠雄（短農）
監事　山根　勝次（食経）
〃　川口　武志（獣医）
〃　岩間　脩（畜産）
事務局長　高坂　鉄雄（食経）
庶務　本江　一郎（林学）
〃　世良田和寛（農工）
会計　木村　貞司（畜産）

高知県に校友会支部が誕生

初代支部長に安岡氏が就任

農獣医学部校友会高知県支部の設立の経緯を見ると、まず特筆すべきことは、いもづる会高知県支部が創立して十周年目にあたっていたことです。いもづる会では十周年記念事業の一環として農獣医学部校友会の統合を唱え、厳しい農業時局を打開してゆくためには小さな組織よりも農獣医学部全体の連携を強めてゆくべきだとの提言を受けて、既設分会の角笛会に呼びかけをする一方、他学科の代表者にも出席を求めて三次にわたる設立準備委員会を開いてきました。こうして大方の賛同を得て高知県支部の設立に踏み出したのです。

安岡高知県支部会長

設立総会は六十三年一月十六日に開催され、学部から丸尾顧問と来米教授、校友会から一川副会長と高坂事務局長、日本大学高知県人会から結城会長の出席を賜わり出席会員は四十二名で盛大な設立総会になりました。開会にあたって安岡設立準備委員代表のあいさつにはじまり来賓祝辞のあと協議に移り提出議案を原案通り決定して高知県支部が誕生しました。

今後は会員の積極的な参加と支援をお願いして高知県支部設立の経過報告といたします。

なお総会当日の会員数は三二七名でした。

事務局長　古谷　真記

学部祭　東京・藤沢　両校舎で開催

今年の学部祭は、東京校舎（三茶祭）が、十月二十二日（土）より二十四日（月）までの三日間と、藤沢校舎（藤桜祭）が十月二十九日（土）、十月三十日（日）の二日間開催されます。

統一テーマは「我が力の及ぶ限り」と決まり、学部祭実行委員会では盛り沢山の企画を立てております。

校友諸兄のご来校を、心からお待ちしております。

昨年同様に順調

就職戦線　内需拡大で採用増も

62年度の就職戦線は当初、円高や貿易摩擦の影響により輸出関連業種を中心に、きびしい雇用環境の悪化が予想されました。全国的には一部の製造業にそれが現われたものの、逆に内需拡大関連産業に大巾採用増がありました。

本学部では昨年とほぼ同様順調に推移し終息致しました。本学部への求人件数は企業が約一一、二〇〇社、公務員関係が約三〇〇件で昨年並でありました。決定状況は全体として株式上場、有名企業及び優良中堅企業が多く、特に食品メーカーとバイオ絡みで製薬企業を含む化学工業への進出が著しく増加しました。

公務員関係も善戦し、特に国家II種にはOB三名を含む一七名が合格し、全体で一〇三名就職しました。Uターン学生の志望業種の一位は地方公務員でありますが、学部ではこれら学生のために、冬・春休みの年二回公務員試験対策講座を実施しており、低学年から受講できるように配慮してあります。就職に対する学生の意識は早期化且つ、要望も多様化しておりますので、本学部は文系学科を含む理系学部であり、他の理系学部や大学に類を見ない程、多くの就職指導行事を行っております。しかし実態は「笛吹けど踊らず」の感がやや致します。学部の組織をあげて取組むことはもちろんでありますが、校友諸兄姉におかれましても一層のご支援をお願い致します。

志願者が殺到

前年よりも約千五百増

昭和六十三年度の本学部への志願者は、応用生物科学科の試験が単独に行なわれた事もあり一万四千五百二十九名で前年より約千四百名 増加した。（推薦入試を除く）短大農業科は三百八十五名、新設の生活環境科は三百三十五名であり平均競争率は学部七・三倍、農業科六・三倍、生活環境科二・四倍となり昨年並みであったが「食糧問題の解決」「環境保全」「バイオテクノロジー」に係る「農獣医学部」への社会的関心が定着してきたと言えよう。尚新設で注目された応用生物科学科には二千三百四十七名の志願があった。

応用生物科学科に百三十人入学

室岡応用生物科学科主任

今年四月一日、農獣医学部に応用生物科学科が新設され、学生一三〇名が入学、勉学にいそしんでいます。応用生物科学科は、二十世紀後半における生物の科学、特に核酸、たんぱく質、酵素、そして生命の基本である遺伝子の科学のめざましい進歩に基づいて、その理論と応用を徹底的かつ総合的に教育し、将来の研究・開発・応用に対応し得る研究者・技術者の育成をめざす学科であります。このような学科が農学系の大学に設置されたのはわが国で最初のことであります。本学科が設立されましたのは、久木田前学部長、門田現学部長はじめ全教職員そして校友会の皆々様の絶大なご努力、ご援助の賜であり、感謝申し上げている次第ですが、今後とも暖かいご後援を賜わりますようお願い申し上げる次第でございます。

短大に生活環境科が新設される

昭和六十三年四月に短期大学部生活環境科が新設されました。この学科は、豊かで健康な生活環境を創るために必要な知識や技術の教育を目的としています。また将来、重要な課題となる自然環境と生活との調和や、福祉の問題についても正しい見識のある人材を育てます。

鈴木生活環境科主任

この学科には、住環境を主とする分野と食生活を主とする分野があります。現在、女子一〇〇名、男子六名が在学しています。

再来年には一度に沢山の女性校友が生れ華やいだムードになる事でしょう。卒業生の中から、将来、インテリアプランナーや、消費生活アドバイザー等のキャリアーも輩出すると期待しています。校友の方々の御鞭撻と暖い御支援をお願い申し上げます。

監査報告書

昭和62年度日本大学農獣医学部校友会会計決算報告及び関係書類について厳正に監査いたしましたところ、適正に処理されていることを認めます。

昭和63年5月24日

監事　山根勝次

〃　川口武志

〃　岩間　脩

昭和62年度日本大学農獣医学部校友会会計決算報告

自昭和62年4月1日・至昭和63年3月31日

会　長　庄川洋一

事務局長　高坂鉄雄

（収入の部）

科目	予算	決算	差異増減△	摘要
1 前年度繰越金	2,252,526	2,252,526	0	
2 入会金	17,395,000	17,395,000	0	
1)昭和62年度入学	15,500,000	15,500,000	0	@10,000×1550
2)昭和61年度入学	1,180,000	1,180,000	0	@10,000×118
3)昭和60年度入学	160,000	160,000	0	@10,000×16
4)昭和59年度入学	140,000	140,000	0	@10,000×14
5)昭和58年度入学	400,000	400,000	0	@10,000×40
6)昭和56・55年度入学	15,000	15,000	0	@ 5,000×3
3 預金利子	900,000	486,432	△ 413,568	
4 雑収入	0	0	0	
収入合計	20,547,526	20,133,958	△ 413,568	

（支出の部）

科目	予算	決算	差異増減△	摘要
1 分会交付金	8,699,000	8,699,000	0	11分会
1)昭和62年度入学	7,750,000	7,750,000	0	@5,000×1550
2)昭和61年度入学	590,000	590,000	0	@5,000×118
3)昭和60年度入学	80,000	80,000	0	@5,000×16
4)昭和59年度入学	70,000	70,000	0	@5,000×14
5)昭和58年度入学	200,000	200,000	0	@5,000×40
6)昭和56・55年度入学	9,000	9,000	0	@3,000×3
2 経常費	6,550,000	5,955,246	594,754	
1)人件費	1,600,000	1,533,000	67,000	事務局手当・アルバイト代・他
2)本部分担金	300,000	300,000	0	
3)事務局運営費	700,000	558,805	141,195	入会案内印刷代・他
4)通信費	1,600,000	1,330,120	269,880	会報発送費補助・他
5)会合費	1,800,000	1,748,871	51,129	総会・懇親会補助・その他会合
6)交際費	350,000	363,030	△ 13,030	部会・分会・支部等祝金
7)交通費	200,000	121,420	78,580	分会・支部連絡交通費
3 事業費	4,900,000	4,471,780	428,220	
1)名簿積立金	1,000,000	1,000,000	0	昭和62年度積立金
2)会報費	1,200,000	971,290	228,710	第40号 40,500部
3)会報委員会運営費	150,000	101,180	48,820	第40号 編集会議
4)名簿委員会運営費	250,000	157,910	92,090	名簿作成会議
5)記念事業費	500,000	400,000	100,000	講習会・他
6)卒業生記念品	1,500,000	1,541,400	△ 41,400	机上事典（2,030冊）
7)年史印刷費積立金	300,000	300,000	0	
4 予備費	398,526	0	398,526	
支出合計	20,547,526	19,126,026	1,421,500	
次年度繰越金		1,007,932		

任意積立金（基金）3,762,800（太陽神戸銀行定期）　名簿積立金 15,239,340（三菱銀行定期）

年史印刷費積立金 800,000（三菱銀行普通）

昭和63年度日本大学農獣医学部校友会会計予算

自昭和63年4月1日・至昭和64年3月31日

会　長　庄川洋一

事務局長　高坂鉄雄

（収入の部）

科目	昭和63年度	昭和62年度	差異増減△	摘要
1 前年度繰越金	1,007,932	2,252,526	△ 1,244,594	
2 入会金	18,360,000	17,395,000	965,000	
1)昭和63年度入学	16,580,000	0	16,580,000	@10,000×1658
2)昭和62年度入学	940,000	15,500,000	△14,560,000	@10,000×94
3)昭和61年度入学	290,000	1,180,000	△ 890,000	@10,000×29
4)昭和60年度入学	70,000	160,000	△ 90,000	@10,000×7
5)昭和59年度入学	420,000	140,000	280,000	@10,000×42
6)昭和58年度入学	60,000	400,000	△ 340,000	@10,000×6
7)昭和56・55年度入学	0	15,000	△ 15,000	
3 預金利子	300,000	900,000	△ 600,000	
4 雑収入	0	0	0	
収入合計	19,667,932	20,547,526	△ 879,594	

（支出の部）

科目	昭和63年度	昭和62年度	差異増減△	摘要
1 分会交付金	9,180,000	8,699,000	481,000	11分会・他　新設2学科
1)昭和63年度入学	8,290,000	0	8,290,000	@5,000×1658
2)昭和62年度入学	470,000	7,750,000	△ 7,280,000	@5,000×94
3)昭和61年度入学	145,000	590,000	△ 445,000	@5,000×29
4)昭和60年度入学	35,000	80,000	△ 45,000	@5,000×7
5)昭和59年度入学	210,000	70,000	140,000	@5,000×42
6)昭和58年度入学	30,000	200,000	△ 170,000	@5,000×6
7)昭和56・55年度入学	0	9,000	△ 9,000	
2 経常費	6,600,000	6,550,000	50,000	
1)人件費	1,600,000	1,600,000	0	事務局手当・アルバイト代・他
2)本部分担金	300,000	300,000	0	
3)事務局運営費	700,000	700,000	0	入会案内印刷代・他
4)通信費	1,600,000	1,600,000	0	会報発送費補助・他
5)会合費	1,800,000	1,800,000	0	総会・懇親会補助・その他会合
6)交際費	400,000	350,000	50,000	部会・分会・支部等祝金
7)交通費	200,000	200,000	0	分会・支部連絡交通費
3 事業費	3,550,000	4,900,000	△ 1,350,000	
1)名簿積立金	1,000,000	1,000,000	0	昭和63年度積立金
2)会報費	1,200,000	1,200,000	0	第41号　42,000部
3)会報委員会運営費	150,000	150,000	0	第41号　編集会議
4)名簿委員会運営費	200,000	250,000	△ 50,000	名簿作成検討会議
5)記念事業費	300,000	500,000	△ 200,000	いもづる会・他
6)40周年記念事業費	700,000	0	700,000	功労者記念品代・他
7)卒業生記念品	0	1,500,000	△ 1,500,000	
8)年史印刷費積立金	0	300,000	△ 300,000	
4 予備費	337,932	398,526	△ 60,594	
支出合計	19,667,932	20,547,526	△ 879,594	

任意積立金（基金）3,762,800（太陽神戸銀行定期）　名簿積立金 15,239,340（三菱銀行定期）

年史印刷費積立金 800,000（三菱銀行普通）

学科	会長	事務局長	会報編集委員	名簿編集委員
農学科	西島目 暉	篠原 正行	勝野 武彦	兼平 勉
農芸化学科	茂沢 晃	山本 一彦	有賀 豊彦	隅田 昭明
獣医学科	田中 禎吉	月瀬 東	佐藤 常男	吉田 仁夫
畜産学科	倉田 稔司	中西 五十	小牧 弘	丹羽 泰夫
食品経済学科	佐藤 弘一	伊東 軍記	下渡 敏治	大矢 祐治
林学科	鹿野 忠	深水 和敏	井上 公基	福沢南海治
水産学科	須田 秀男	泉座 和征	広瀬 一美	松宮 政弘
農業工学科	一川 宏也	辻 厚志	石川 重雄	斎藤 公三
食品工学科	野田 義人	菅井 幸雄	千野 誠	荒井 安雄
拓植学科	庄川 洋一	早川 治	緒方 行広	長谷川勝男
短大農業科	富沢 寿勝	齋藤 忠雄	齋藤 忠雄	鈴木 明夫

日本大学農獣医学部・短期大学部農業科・生活環境科案内

大学院　農学研究科　農学・農芸化学・畜産学・農業経済学・水産学・農業工学・食品工学の各専攻

獣医学研究科　獣医学専攻

大学　農・農芸化・獣医・畜産・食品経済・林・水産・農業工・食品工・拓植・応用生物科学科の各学科

短期大学部　農業科・生活環境科

昭和64年度　入試科目・期日

学部	昼・夜	学科	入試期日	入試科目
農獣医学部	昼	獣医・食品工	2月14日(火)	数学―「数学I，数学II」，「数学I，代数・幾何」，「数学I，基礎解析」，「数学I，微分・積分」，「数学I，確率・統計」のうちから1科目選択 理科―「理科I(物理の分野)，物理」，「理科I(化学の分野)，化学」，「理科I(生物の分野)，生物」のうちから1科目選択 外国語―英語I，英語II
		農業工	2月17日(金)	
		農学	2月14日(火)	国語―「国語I，国語II」 数学―「数学I，数学II」，「数学I，代数・幾何」，「数学I，基礎解析」，「数学I，微分・積分」，「数学I，確率・統計」のうちから1科目選択 理科―「理科I(物理の分野)，物理」，「理科I(化学の分野)，化学」，「理科I(生物の分野)，生物」のうちから1科目選択 外国語―英語I，英語II
		農芸化学・畜産・林学・水産・応用生物科学科	2月17日(金)	
		拓植	2月14日(火)	国語―国語I，国語II 社会―日本史，政治・経済，地理のうちから1科目選択 外国語―英語I，英語II
		食品経済	2月17日(金)	
短期大学部	昼	農業科・生活環境科	3月7日(火)	国語・数学・理科・社会―「国語I，国語II」，「数学I，数学II」，「数学I，代数・幾何」，「数学I，基礎解析」，「数学I，微分・積分」，「数学I，確率・統計」，「理科I(物理の分野)，物理」，「理科I(化学の分野)，化学」，「理科I(生物の分野)，生物」，日本史，政治・経済，地理のうちから1科目選択 外国語―英語I，英語II 〔農業科は理科を選択〕

〔授業校舎〕

○農・獣医・畜産・農業工・応用生物科学科の5学科及び短大農業科・生活環境科は藤沢校舎

○農芸化・食品経済・林・水産・食品工・拓植の6学科は1年次だけ藤沢校校舎。2年次より東京校舎。

★入試関係についての照会は
（〒154）東京都世田谷区下馬3-34-1
日本大学農獣医学部入試事務室へ

農学校友会

新たな進展へ会則改正

日本大学会館で総会

会長に西鳥羽曙氏選出

昭和62年度農学校友会総会（於日本大学会館）

◇農学科◇

昭和六十二年度の総会は、昨年昭和六十二年九月二十六日（土）日本大学会館九〇四会議室にて幹事会に引続き開催されました。今回の総会は四年に一度の幹事および役員改選の年であり（通算三十五回目）、昭和六十一年度の事業一般経過・会計決算報告の審議、承認に引続いて、重要な会則改正が議されました。会則改正の主な点は、①第十四条役員の任期、②第十八条会計年度、③第二十条会費でした。これらについて十分審議され、役員の任期は会長・副会長・理事（三年）、幹事（六年）、会計年度は従来の十月一日～九月三十日から四月一日～三月三十一日に変更、会費は年会費制を終身会費制（終身会費一万円）とすることが満場一致で承認されました。

これにより校友会事務の簡素・円滑化を計りながら、今まで以上の活性化をめざし進められるものと確信しております。なお、この会則改正に関する報告は、既に昨秋、皆様のもとへご連絡が参っていると思いますが、改めてご報告し、皆様のご協力をお願いいたします。総会では、引続き新役員の選出が行われ、満場一致ですべて承認されました。新役員は次の方々です。

会長・理事　西鳥羽曙
副会長・理事　浅野明
副会長・理事　宮浦敏麿
庶務理事　坪木良雄
会計理事　西山栄一
理事　横山芳男
理事　古川仁郎
理事　富岡玄
理事　久保田昌平
理事　上条明雄
理事　鈴木清一
理事　坂倉龍彦
監査役　芦川勝吉
監査役　浅川広治

会則改正にともなう点もあり、多くの役員の方々は留任をお願いすることになりましたが、皆様のご活躍をお願い申し上げる次第です。また、昭和六十二年度の事業及び予算案の承認に引続いて、永年庶務理事として農学校友会に尽力されました高橋文次郎教授に、農学校友会から感謝状が贈られました。

総会に続いて会場を八〇一会議室に移し懇親会が行われました。来賓の方々に、学部校友会会長庄川洋一氏はじめ各校友会分会の会長、学部からは円田宏美学務担当・教授（現学部長）らをお招きして盛大に行われました。これもひとえに各期幹事をはじめとする校友諸氏のご活躍の賜であると同時に、役員の皆様方のご尽力によるものと考えております。改めて感謝いたす次第です。

◇学科内の動き◇

【入学・卒業】　農学科は今春一四〇名の新入生を迎えました。農業の置かれた状況が国際的にも厳しく、新たなバイオ技術の導入といった重要な課題もあり、毎年競争率も高くなっております。優秀な新しい息吹きが学科の勢いを押し上げてくれそうです。また三月には二〇八名の卒業生を送り出し、新たな校友となりました。先にも示したように、第一次産業の農業の環境は厳しいのですが、今こそ若い力、強い使命感を持った人達が必要なのでしょう。就職も大変順調で、各方面での新しい力の活躍を期待しております。

【学生の研修旅行】　農学科の在籍者数は六八〇余名ですが、各学年の学生とも講義、実験、実習、演習に頑張っております。その中、五月には新入生約二二〇人が教員とともに恒例の伊豆地方へ一泊二日で研修旅行を行い、暖地農業を見学し親睦を深めました。（写真はそのスナップの一部）二年生は静岡県牧の原台地・日本平地方の農業事情を、三年生は山梨・長野地方の果樹・高冷地野菜栽培の現状を視察し、今日的な問題や課題を研修し、参加学生は大きな成果を得ました。

新入生の伊豆見学旅行（伊豆洋ランパークで）

【教員の昇格採用】　篠原正行助教授（植物病理学研究室）は、本年四月一日付で教授に昇格されました。心からお慶び申し上げますとともに、今後の学科発展のため一層、ご健康でご活躍くださいますことを期待いたします。

また、同日付で作物学研究室に磯部勝孝助手が採用されました。磯部助手は、本年三月、本学農学系研究科博士前期課程（農学専攻）を修了された新進気鋭の人物。大学院での研究テーマは「マメ科植物の穀物生産効率に関する研究」で、今後も作物学に関するご活躍を期待したいと思います。

磯部勝孝助手

【学会行事】　農学関係の諸学会のうち、来春四月から五月にかけて三学会（園芸学会春季大会＝四月一・二日、日本育種学会＝四月三・四日、日本造園学会全国大会＝五月二十・二十一日）が、本学藤沢校舎で開催される予定です。

農業の高度化・多様化が進む中で重要な時期に、全国規模での学会が、農学科関係教職員の力で準備されております。各学会とも盛会を期待いたしたいと思います。

現在、四年生は卒業論文の作成や就職活動に一生懸命。幸い就職戦線は好況に合せ順調のようで、早々と内定をもらった学生も多く嬉しい状況のようですが、これも卒業生・校友の皆様のお力添によるものと教員一同、感謝いたしております。

終身会費1万円

納入者には記念品を贈呈

これまでにご報告の通り、会費が終身会費（一万円）となりました。会員諸兄の皆様で払込みを失念されておられましたら、何とぞよろしくお願いいたします。お納めくださいました方には、記念品をお送りしております。詳細は、農学校友会会計係・兼平勉までお問い合わせください。

教育懇談会に農学校友積極参加

学部当局は、入学対策の一環として、昨年に続き教育懇談会を本年八月十九日藤沢校舎で開催いたしました。全参加者六〇名余中、農学科卒の校友が二九名と多く出席され、活発な意見交換のうち成功裏に終了いたしました。

（文責・勝野武彦）

紫友会

◇農芸化学科◇

カリキュラム大幅に改定

研究室構成 7研究室に改変

当科カリキュラムは大幅に改訂され、本年度入学学生から適用されることになった。これは、昭和四十九年の改訂に続くもので、教科目の新設、削除および単位数の変更、開講年次の変更、必須・選択の変更など改訂点は多岐に渡っている。

バイオサイエンス指向の強い昨今の社会状勢への対応、新設学科（応用生物科学科）との連携、学科新設に伴う人事の移動などを考慮して実施に移されたもので何よりも当科の充実に重きをおくものとして評価されている。生命科学原論、植物機生体能学、環境土壌学、天然高分子化学、微生物遺伝育種学、植物細胞化学、生体機能学など目新しい教科が多数盛り込まれ、新農芸化学科の誕生を伺わせるほどの改訂となっている。これらの改訂は、教員の構成や担当科目にも影響を与えている。本年度の大石邦夫教授（微生物化学、前東京大学助教授）招聘に加えて今後も優秀な人材の補充が予定されている。

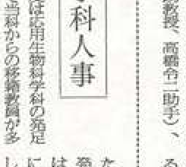
研究室の構成も改められて次の七研究室となった。土壌学研究室（松坂泰明教授、山本一彦助教授、隅田裕明講師）、植物栄養生理学研究室（矢崎仁也教授、小嶋博文講師）、生物有機化学研究室（白井和雄教授、奥　忠武助教授）、微生物化学研究室（大石邦夫教授、加藤　順講師）、微生物学研究室（畑山龍明助教授、高橋令二助手）、食品化学研究室（石井譲二教授、桜井英敏助教授）、栄養生理化学研究室（有賀豊彦助教授、関　泰一郎助手）。また大学院（農芸化学専攻、矢崎仁也専攻主任）のカリキュラムも講義担当者を含めてやはり大幅に改訂される見込みである。これは研究室担当者の変動および大学院進学率の増加に対処するために行われるものである。

学科人事

本年度は応用生物科学科の発足に伴って当科からの移籍教員が多数にのぼったため大幅な変動となった。室岡治義教授、中嶋睦安助教授、砂入道夫助手（以上、醗酵化学研究室）、名取正彦教授（酵素化学研究室）、安藤忠彦教授、高橋武美教授（以上、当科所属総研教授）の六氏が当科から転出した。農芸化学科発足当初より科の発展に尽力してこられた室岡教授はじめ前記の諸先生の転出は当科にとって大きな痛手である。しかし、新学科の発展のため、大学の一層の発展のためにはやむをえない事態ではあった。これまでのご指導に対して感謝申し上げるとともに、新しいとはいえ全く異なる環境下で努力される先生方の健康を祈ってやまない。

大石教授が着任

大石邦夫教授(52)は四月一日付で当科に着任された。大石教授は東京大学応用微生物学研究所第四研究部で助教授として活躍されていた。昭和四十二年には農芸化学奨励賞を受賞されている。このたび、当科の微生物化学研究室を主宰していただけることになった。主な研究テーマは、「微生物の生産する生理活性物質の検索と生合成機構およびそれが微生物、動植物に対する作用に関する研究」である。


大石邦夫教授

"会員約40人が出席"

62年度総会と懇親会

昭和六十二年度の紫友会総会および懇親会が、昭和六十二年十一月二十日午後六時から八時半にかけて御茶の水の東京ガーデンパレスで開催された。総会は会員約四十名の出席のもとに行われ、茂沢会長挨拶に続き、木嶋弘倫副会長を議長に推挙して、六十一年度経過報告から五項目の議題について報告や討論を行い、滞りなく終了した。

なごやかな懇親会の模様

この後に宴会場に移り、来賓として庄川洋一学部校友会会長、大村収元教授など校友会関係の方々、学部関係の方々など二十名のご臨席を仰ぎ、懇親会が挙行された。毎年総会への参加者が少ないのが悩みの種であるが、今回は昭和四十一年卒の参加者が六名もいて賑やかとなった。これは、この期の友人達が懇親会の場を利用して同窓会を行ったからである。山本事務局長は、他の期も大いに真似て、どしどし参加してほしい、と語っていた。

総会での茂澤会長、木嶋副会長

11月26日に紫友会総会

本学部東京校舎で

昭和六十三年度紫友会総会は、来る十一月二十六日（土）午後三時より本学部東京校舎に於いて開催され、ひき続き懇親会を行う予定である。

本年度は特に、各卒業期ごとの同期会なども併せて開きやすいように曜日、時間などを考慮して設定されたものであり、また会場も母校ということもあり、会員諸氏の多数の参加をお願いする次第である。

理事会を開催

東京校舎会議室で

去る六月二十四日、本学部東京校舎第一会議室に於いて、昭和六十三年度の紫友会理事会が開催された。

茂沢会長以下二十余名の理事出席のもと、昨年度会計報告および会計監査報告、事業計画、本年度予算審議、会則変更など、各議題について熱のこもった論議を経て決議を得るに至った。

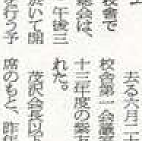
なお会則変更については、会員数増加などに伴い役員、代議員の定員、代議員の選出方法などを中心に、本会の現状に鑑み是正する方向で審議された。

理事会での決議事項は来る十一月二十六日の総会に諮られ、会員諸氏の審議に委ねられることとなった。

▽▽▽▽小栗氏がソウル五輪に出場△△△△

本会会員小栗和成氏（六十二年卒。現岐阜・恵那高教員）は、重量挙げ六〇㌔級代表として、九月に行なわれたソウル・オリンピックに出場し七位入賞を果した。

本学在学中から各大会で活躍し去る六月に行われた全日本選手権で優勝、堂々のオリンピック出場であった。


小栗和成氏

氏は土壌学研究室で卒論作成の後、卒業後は出身地である岐阜県立恵那高校定時制の理科教員として教壇に立つとともに、猛練習に明け暮れる毎日である。

盛況だった就職懇談会

本年度の就職戦線は順調な滑り出しをみせ、今や多数の学生が内定を得て、終盤に近づいている。

当農芸化学科では、そんな就職期を前にした六月十一日に先輩諸氏を招いて就職懇談会を催した。参加者は、木村元彦氏（キューピー部長・三十八年卒）、浜野光年氏（キッコーマン部長・四十二年卒）、清水利彦氏（朝日工業部長・・四十四年卒）、長谷川清氏（日清製油六十一年卒）、有留智子氏（和光純薬・六十三年卒）の五氏に、当科四年生約八十名で、それぞれの会社の紹介や経験談、社会人としての心得などを弁舌さわやかに語る先輩達に、学生一同ただ驚嘆するばかりであった。

この会は例年三年次の終りに持たれていたが、今年は就職戦線突入直前ということもあって、みんな真剣に耳を傾け、すべてを吸収しようという熱気が感じられた。散会後、招待者と当科教員との懇親会が食堂で行われた。

（文責＝有賀豊彦・高橋令二）

角笛会

◇獣医学科◇

約70人が出席
63年度角笛会総会を開催

昭和六十三年度角笛会総会が、五月二十一日午後三時から三軒茶屋銀座アスターで、約七〇名の出席者を得て開催された。まず田中延吉会長の挨拶があり、次いで議長に加藤喜尚愛知県支部長（一六年卒）が選出され議事に入った。事業関係について福田陽一事務局長が、会計・予算関係について渡部敏会計幹事がそれぞれ報告した。会計監査については吉田賢監事が報告し承認された。また、昨年実施された角笛会八十周年記念について日比野次郎実行委員長からお礼の挨拶があり、引き続いて記念事業について福田陽一事務局長から報告された。

今年度は役員改選にあたっており審議の上、田中延吉会長、日比野次郎副会長及び宮田萬司副会長は留任となった。学内では後進に譲ることをモットーに、長尾壮七副会長の後任に白井弥教授が、福田陽一事務局長の後任に月瀬東助教授が選出された。これに伴い長尾壮七教授と若尾良知山梨県支部事務局長（三一年卒）が常任理事として承認された。

総会終了後、引き続き懇親会が開催され、円田定美学部長を初め多数の来賓及び会員が出席され、盛会裡に終了した。

なお事務局幹事が、その後左記のように選任された。

会計幹事・田中茂男助教授
庶務幹事・酒井健夫助教授
名簿幹事・吉田仁夫助教授
会報幹事・佐藤常男専任講師

→角笛会総会↓

◇学科の近況◇

角笛会報第四号でお知らせしましたように、獣医生理学の佐久間勇次教授（農学博士・東獣一七年卒・九大二一年卒）が三月二十一日付で学部執行部の就職指導担当に就任されました。

四月より新任の先生方は久保周一郎教授（理学博士・元北大教授・函館水産卒）が獣医生理化学研究室に、稲葉右二教授（医学博士・元農林省家畜衛生試験場製剤部長・鳥取農林卒）が獣医伝染病学研究室に、藤原公策教授（農学博士・元東大教授・東大卒）が新設された獣医第二病理学研究室に、野上貞雄専任講師（医学博士・元東大医科学研究所文部技官・四九年卒）が医動物学研究室にこられました。獣医衛生学研究室には高橋薫助手（獣医学修士・六一年卒）がこられ、同研究室の大池（旧姓高橋）明子副手（食品工学科卒）は獣医第二病理学研究室へ移動しました。また三月で任期満了により退職された坂本康理副手（畜産学科卒）の後任として、清水裕子副手（畜産学科卒）が獣医公衆衛生学研究室にこられました。

昇格としては獣医生理学の金山喜一助手（五四年卒）が専任講師になられました。

佐々木博士に勲四等瑞宝章
畜産振興への貢献で

佐々木文存博士

佐々木文存博士（昭和十一年卒）は、春の叙勲で勲四等瑞宝章を受章されました。このたびの叙勲は先生の長年にわたる畜産振興への貢献に対し授与されたものです。

佐々木先生は、長年にわたり社団法人動物用生物学的製剤協会ならびに動物用ワクチン協同組合の理事を勤め、殊に昭和五十七年から六十年には同協会ならびに同組合の理事長の要職にあるとともに昭和五十九年以降、株式会社微生物化学研究所の所長ならびに代表取締役社長として、動物用生物学製剤の開発研究・製造および供給に尽力し、家畜防疫を通して畜産振興に寄与してまいりました。また、昭和三十九年から四十年には京都府獣医師会会長を勤め、さらに昭和四十二年以来現在まで京都府の任命により、京都府家畜改良増殖審議会委員を勤めるなど、地域の畜産振興にも貢献してまいりました。さらに長年にわたり社団法人日本獣医学会の評議員、鶏病研究会の理事を現在も勤めるなど関連学会の発展にも尽力いたしてまいりました。先生のご健勝と今後ますますのご活躍を心から祈念します。

新入生の歓迎会
藤沢市湘南海岸で

新入生歓迎会のひとこま

好天に恵まれた五月五日に、藤沢市湘南海岸において、獣医学科新入生歓迎会が開催されました。春の連休にもかかわらず多数の教員・学生が参加し、バーベキュー・地引網などをともにし、楽しい一日を過ごしました。

恒例の牧場実習
2年生が北海道などで

牧場実習風景

獣医学科二年生は、七月十九日から約一カ月間にわたり、恒例の牧場実習を行いました。今年の実習先は北海道中標津町六十八名、日高町十四名、八雲町十名、岩手県大東町五名、山梨県八ケ岳牧場十名、日大付属農場二十三名でした。引率は津曲茂久専任講師、大場茂夫専任講師、高木香助手の先生方です。

アメリカでの夏期セミナー
大学院獣医学研究科

カリフォルニア大学デービス校（七月十八日より七日二十日まで三日間）と、ワシントン州立大学（七月二十七日より八月三日まで八日間）で臨床に関する講義と実習が行われました。引率の先生は武石昌敬獣医学科主任を団長とし以下月瀬東助教授、潘英仁助教授、鳥川真富専任講師、金山喜一専任講師、木村順平助手、直井昌之助手の方々で、参加学生四十一名が受講し、修了後無事帰国しました。ワシントン州立大学でのセミナーの模様は地元の新聞にも報道されました。

ワシントン州立大学での馬の実習

卒後教育の実施も　武石教授談

三年間にわたる交流に信用を得て、このたびワシントン州立大学グスタフソン教授が日本における卒後教育（小動物、産業動物および馬）の実施について、全面的に本学を支援することを確約してくれた。

11月27日に京都で東京獣医畜産学会開く

今年度の東京獣医畜産学会は次の内容で開催されます。

日時＝十一月二十七日（日）
会場＝きょうと平安会館・京都市上京区烏丸通上長者町上ル　電話〇七五（四三二）六一八一
学会長＝岡野真臣教授
担当学会長＝佐々木文存博士（微生物化学研究所所長）

今年度も一般講演と特別講演から成り、特別講演は山根義久博士（小動物臨床研究所所長）による「ネコの心筋疾患の病態と治療」および今西二郎教授（京都府立医科大学）による「生体由来の腫瘍壊死因子（TNF）について」が講演されます。多数の先生方のご参加をお願いいたします。

（文責佐藤常男）

満喜葉会

◇畜産学科◇

農獣医学部校友会40周年記念における畜産学科の教員および満喜葉会々員（昭63・7・9）

理事会・幹事会、財源検討委員会を開く

昭和63年度の第一回満喜葉会理事会および幹事会が、5月22日午前11時より学部藤沢校舎第一会議室で行われた。会議は昭和62年度事業報告および決算案ならびに昭和63年度事業計画および予算案について事務局から説明があり、慎重審議の後承認された。また倉田裕司会長からは、満喜葉会の中長期的な財政見通しを検討しなければならない時期に来ているとの発言があった。

会の運営は終身会費、学部校友会からの交付金、および終身会費相当寄付金などによって賄われているが、毎年百数十名ずつの新会員が入会し、会報の作成費や郵送費などの経費は増加し続けるため、このままでは近い将来には赤字運営をしなければならない危機をかかえていることも事実である。

この会長発言をうけて、今では財源検討委員会が結成され第一回の委員会が倉田会長、大嶋、秋元副会長、長野、岩間両理事および事務局員五名というメンバーの出席のもとに、学部校友会総会が開催された7月9日午後1時から新宿で行われ、事業計画の見直しや財源確保の方法などについて多方面からの検討が行われた。

‖学科の動き‖

移籍（4月1日付）

家畜繁殖学研究室の佐藤嘉兵助教授は、本年4月より新設された応用生物科学科の動物細胞学研究室へ移籍されました。先生は昭和43年より20年の長期にわたって畜産学科で教鞭をとられ、多くの優秀な人材を育成するとともに多数の業績を発表されて来ました。永年のご指導を感謝すると同時にますますのご発展をお祈りします。

退職（3月31日付）

鈴木初江さんと、長屋（旧姓小泉）泰子さんのお二人は、畜産学科の副手として勤務されて来ましたが、この三月に農獣医学部の副手任用に関する申合せによる任用期間である4年間が終り、退職されました。ご両人は満喜葉会の事務局員としても貴重な戦力でありました。今後のご活躍をお祈りします。なお、鈴木さんは郷里の福島県の実家に帰られ、長屋さんは、引き続き学部東京校舎の就職指導課で、アルバイトをされるとのこと。

新任（4月1日付）

佐藤嘉兵助教授の後任には名古屋大学農学部畜産学科から甲斐蔵（かい　おさむ）博士が助教授として着任されました。先生は昭和47年宮崎大学農学部を卒業され、昭和48年名古屋大学農学研究科修士課程に入学し、昭和53年同博士課程を修了、そのまま同大学（畜産学科家畜生理学教室）に職を得て残られました。ご専門は動物の免疫機構に関する研究。主な担当科目は繁殖生理学、免疫生物学などです。

前記の鈴木さんと長屋さんの後任としては、牛嶋英津子（うしじま　えつこ）さんと我妻幸（わがつま　みゆき）さんが副手として採用されました。お二人とも本学部畜産学科昭和63年のご卒業です。お二人の活躍を期待します。

格昇（4月1日付）

畜産経営学研究室の小泉聖一助手は、このたび専任講師に昇格されました。

海外出張

小牧弘助教授は、昭和61年度日本大学長期海外派遣研究員として、かねてからオーストラリアのニューイングランド大学生化学・栄養学部に留学され、反芻家畜の栄養生理に関する研究を行ってきましたが、多大の成果をあげて4月26日に帰国された。

増田哲也専任講師は、昭和六十三年二月十九日から二月二十七日までイギリス国立酪農研究所、フランス国立農業研究所における研究交流のため出張されました。

満喜葉会事務局長の中西五十助教授は、昭和63年度日本大学短期海外派遣研究員として7月15日から「ヨーロッパ諸国における乳肉生産と土地利用に関する調査」のためデンマーク、オランダ、西ドイツ、スイス、スウェーデンおよびフランスの欧州各国を歴訪され、8月18日に帰国された。

小泉聖一専任講師は「米国における畜産物の流通・消費に関する調査」のために7月25日から8月6日まで、米国ワシントン州立大学およびカリフォルニア大学デービス校などに出張された。

新入生の歓迎会
学部藤沢校舎で

恒例となっている畜産学科新入生歓迎会は、学科と満喜葉会の共催により5月22日午前10時から学部藤沢校舎で行われた。当日はあいにくの雨天でグランドでのソフトボール大会はできなかったが、昨年完成した体育館に場所を移してバレーボール大会を行った。大会は畜産学術研究部の学生諸君の計画により、学術部チーム、新入生チーム、教員チームなどに分かれて行われ、大いに盛りあがった。またこの日には、前記の満喜葉会の理事会幹事会も行われており、夕方からはこのメンバーも合流して盛大に歓迎懇談会が行われ、大変楽しいひとときを過ごした。

満喜葉会三地域分会が発足

満喜葉会では新たに3つの分会が発足しました。

北海道満喜葉会は、昭和62年11月21日に札幌において設立総会が行われ、会長に中川藤一、副会長に曽根章夫、事務局長和田邦宣の諸氏と若干の理事幹事を決めた。当日は白山巖前満喜葉会会長も出席されて会の発足を祝った。

高知満喜葉会は、昭和62年12月7日高知市において設立総会が開催され、会長森田稔雄、副会長中西久之、事務局長岩川正実の各氏が就任した。

沖縄満喜葉会は、3月22日に那覇市において、設立総会が開催された。総会は長野畜産学科主任も出席されて和気あいあいのうちに進められ、会長に長田有権氏が選ばれ、事務局長に神田正午氏がつとめられることとなった。

これらの会は5月22日に行われた満喜葉会理事会および幹事会で承認され、正式に発足した。

なお、この3分会を含めると、満喜葉会地域分会は11となった。

満喜葉会懇親会

昭和62年度の農獣医学部の藤沢校舎における学部祭（藤桜祭）は昭和62年10月31日および11月1日の両日に行われた。この期間に合わせて毎年満喜葉会の理事会、幹事会が開催されるが、昨年は11月1日に行われた。夕方からは恒例となっている満喜葉会懇親会が行われ家族連れを含めた多数の会員諸氏が参加された。

満喜葉会懇親会

訃報

北村征生助教授は、昭和62年12月23日に脳内出血のため急逝されました。先生は昭和47年本学部畜産学科をご卒業の後、九州大学大学院に進まれ、昭和53年に農学博士の学位を取得されました。昭和54年には農林水産省に職を得て、熱帯農業研究センター沖縄支所に配属され、昭和60年には主任研究官として草地試験場に移られました。その間に暖地型飼料作物に関する数多くの業績を発表され、昭和62年4月に母校に帰られ、これからという時のご発病でありました。享年43歳。慎しんでご冥福をお祈りいたします。

佐々木実先生の一周忌行われる

昨年一月二十八日逝去された元教授の佐々木実先生の一周忌は、本年一月二十三日ご遺族のご意見により、近親者のみで自宅で行われ、先生のご冥福を祈られました。

（文責・泉水直人）

いもづる会

◇食品経済学科◇

40周年記念式典と祝賀会を開催

〈食経フォーラム〉

いもづる会創立四十周年記念事業および式典・祝賀会が、約三百名の校友来賓の参加を得て、七月二日千代田区半蔵門のダイヤモンドホテルで盛大に催されました。

記念式典・祝賀会に先立ち、午後二時より同ホテル内において「学科四十年、そして二十一世紀をめざして」と題する食経フォーラムが開催されました。

フォーラムは高畑鉄雄助教授、戸村捷一氏、井上善幸氏、小山壮之氏の四名のパネラーによる報告「学科四十年を振り返って」、「わたしの学生時代と今学科について思うこと」が行われました。四氏の報告をうけて、金光喜太郎、道谷眞弘両OBの司会によって全体討論に移ったが、約百名の出席者による活発な議論が展開されました。なお、フォーラムの内容などにつきましては、後日これを取りまとめて会員諸兄にご報告する予定です。

〈記念式典・祝賀会〉

フォーラム終了後、記念式典および祝賀会が行われました。式典は、まず小林忠夫実行委員長の開会の辞に始まり、佐藤いもづる会長の挨拶の後、庄川農獣医学部校友会長、門田学部長、久恒本部校友会事務局長からそれぞれ祝辞をいただいた。この後、表彰に移り、初代事務局長の　米米　連水教授、前事務局長の高畑鉄雄助教授が永年校友会の発展に尽力された功績により、また本会の高知・山梨・長野・群馬の各支部ならびに日本青年会議所会頭を務めた向村忠夫氏、総長賞を授与された清野誠寛氏の両OBが、それぞれ会から表彰された。最後に、四十周年を記念して会から学部へ記念品が贈呈され、学科へはブルーの色調にFEの学科ネームをデザインした応援旗がそれぞれ手渡された。

式典終了後、青木一巳名誉会員の音頭で乾杯し祝賀会に移った。祝賀会はかつてない多数の校友の参加によって盛大に催されたが、日本大学管弦楽団五十名による演奏が会場のムードをより一層盛り上げた。会は盛会のうちに終盤をむかえ、久木田寛前学部長の万歳三唱につづいて校歌を斉唱しましたが、校歌斉唱の方法をめぐって久恒本部校友会事務局長よりクレームがつき、再度校歌を斉唱し直すというハプニングがありましたが、それが一層会を盛り上げる結果になりました。

最後に、本会を代表して角井副会長よりお礼の挨拶があり、記念すべき四十周年の式典・祝賀会の幕を閉じました。

「食経フォーラム」

学部への記念品贈呈

学科旗の贈呈

40周年記念式典

万歳三唱

祝賀会

《事務局から》

今年も早やハ月が過ぎ、今や就職戦線も終盤にさしかかって参りました。今年は昨年になく学生の売り手市場とあって、就職戦線は学生側に有利に展開してきておりますが、食品経済学科は科名変更して以降、学生の就職先もすっかり様変わりしてしまいました。

本会では毎年の総会・懇親会を七月の第一土曜日に固定化してまいりましたが、最近の就職先の動向をみてみますと、七月の第一土曜日の開催では若干会員の総会・懇親会への出席が望めない状況になってきております。そこで事務局・幹行部では、この機会に総会・懇親会の開催日を見直し、併せて発足以来の会名称である『いもづる会』の名称を見直そうという気運が高まってきております。これらの問題が具体的に討議されるのは次年度になるかと存じますが、会の近況として一応会員の皆様方にお知らせしておきます。

最後に皆様方のご健勝とご活躍をお祈りいたします。

（文責下渡　敏治）

いもづる会40周年記念誌を発行

本会では四十周年記念事業の大きな柱として、六十二年度より四十周年記念誌の出版の準備をすすめてまいりましたが、多数の校友ならびに学部・学科の諸先生方の協力を得て五千余名の会員名簿を収めた約三百ページ（内グラビア二十四ページ）の堂々たる記念誌を刊行することができました。終身会費を納入されている校友の皆様方には既にお手元に届いていることと存じますが、まだ終身会費を未納のOBの諸兄は、会費納入と同時に記念誌を発送いたしますので、早目に納入くださるようお願いいたします。

《学科の近況》

食品経済学科は、旧農業経済学科から食品経済学科に学科名を変更して、今年でちょうど二十周年を迎えることになりました。これを記念して、学科では学科教員全員の執筆による記念論文集（仮題「現代食品経済の諸問題」）を刊行すべく、現在その準備をすすめております。また学科では、島津学科主任を中心とするカリキュラム検討委員会を設置して、食品経済学科の教育・研究体制の一層の充実・強化をめざして、新カリキュラムの編成作業も併せてすすめております。

林学科分会

◇林　学　科◇

5人に輝く林学校友会長賞

昨年度よりスタートした林学校友会長賞の今年度授与式が去る三月二十五日の卒業式後に行われ、昭和六十二年度卒業生の中から各コース一名合計五名の卒業生が選ばれました。今回は森林生産コースより井上和幸君【（株）クリニカルサプライ】、林業経営コースより斎藤万佐夫君（山形大学大学文君【（財）林業土木コンサルタンツ】、木材工学コースより山口啓昇君【（株）青木工務店】、緑地保全コースより松井信行君（観泉女学園短期大学）が鹿野会長より賞状ならびに記念品を授与されました。林学校友会長賞は昭和八十一年度より新たに開設され、特待生を除く卒業生の内、学業・人品ともに優秀で、かつ林業関連へ就職する者に対し各コース二名計五名を林学科教員が推薦するものです。今後のご活躍と校友会の発展に寄与されることを期待します。

鹿野会長、片岡副会長、浜本事務局長を囲んで晴れの受賞者（左より山口、斎藤、鈴木、井上、松井君）

〔学科の動き〕

【人事】

本年四月より鍛代郁夫君が助手として林学科へ勤務することになりました。鍛代助手は本学部林学科を昭和五十四年（二十八期）に卒業後、林学科研究室、林学科副手を経て、本学大学院を修了されました。専門は植生関係で、新進気鋭のホープとして今後の活躍が多いに期待されます。

【学生実習】

在学生の講義・実験実習については、例年通り行われておりますが、特に新入生に対する林学実習は野生動物の生態と飼育の観察、住宅産業関連諸施設見学、森林土木機械の操作実習、森林雪上調査等幅広く行われています。二、三年生は夏季休暇を利用して、測量実習や造林学実習をはじめとするいくつかの実習が群馬県の水上演習林で行われています。四年生は既に夏休みをピークにして就職戦線が繰り広げられていますが、本年は校友を通して各県庁林務関係からの強い勧誘が目につきます。

今後とも校友諸兄の絶大なるご協力をお願いいたします。

【海外出張】

海外関係では、塩沢専任講師が昭和六十二年度日本大学中期海外派遣研究員として、今年三月より中国黄土高原の緑化協力プロジェクト総責任者として中国へ、本江助教授はプクロフェストリーの調査研究のためインドネシアへ、それぞれ出張されました。

【入学・卒業】

昭和六十三年度入学試験は去る二月十七日に実施され、林学科志願者総数は九百九十九名と昨年をやや下回りました。このうち百六十一名が晴れて入学許可され、勝沢キャンパスで盛況中です。一方、昨年度の卒業式は三月二十五日に日本武道館で行われ、百六十五名が実社会に羽ばたき、同時に新校友会員となられました。

新入生の実習（外材の処理工程見学）

参加校友と林学科教員

V 2 達 成!

学部校友会の40周年を祝う

日本大学農獣医学部校友会四十周年記念式典・祝賀会が、去る七月九日に新宿京王プラザホテルで開催され、林学校友会からは、校友三十数名と多くの学科教員が出席され、大盛会のうちに終了しました。

叙　勲

中塚友一郎元教授（現非常勤講師）と、日塔正俊元教授（本年七月逝去）は、長年の林産・林業教育のご功績に対し、ともに勲三等旭日章を、また梅田三樹男元教授（現非常勤講師）は、長年の林業行政ならびに林業教育のご功績に対し、勲四等旭日章をそれぞれ叙勲されました。今後ますますのご健康をお祈り申し上げます。

訃　報

日塔正俊先生は、去る七月二十七日、肺炎のため、東京女子医大病院で逝去されました。先生は、昭和五十一年四月本学科教授に就任され、昭和五十九年三月まで森林動物学関連の授業を講義される傍ら、実に多くの卒論学生のお世話をされました。また、今年春に就勲三等旭日章を叙されたばかりで、その残務整理の終わらないうちの突然の急逝でした。謹んで先生のご冥福をお祈り申し上げます。

蓑田茂先生は、昭和六十二年十二月に逝去されました。先生は、昭和三十七年七月から昭和五十二年九月まで教授、その後七年間非常勤講師ならびに兼任講師をお勤めになり、林業経営学を中心とした講義を担当される傍ら、付属演習林長、主任教授などを歴任されました。特に北海道八雲演習林の公団造林事業は先生がとこのほかご苦労され、今や千ヘクタール余におよぶトドマツの造林地が出現するに至りました。謹んで先生のご冥福をお祈りいたします。

（文責井上公基）

桜水会

異常気象で影響は大
考えてほしい水産の進路

◇水産学科◇

水産学科卒業の校友の皆様お元気でご活躍のことと推察しております。今年は暖冬、夏は長雨と異常気象で水産動植物への影響も大きく、人間の力以上に自然の力に左右されていることに気づかれない人はいないでしょう。二十一世紀に向けて水産界がどのように進路を決め生き伸びて行くか、水産に学んだ者の一人として、ぜひ皆様にも考えていただきたいと思います。

〔学科の近況〕

一期生の門田先生が学部長に

今年の大ニュースは、一期生の門田定美先生が学部長になられたことです。本学部出身の教授によって統治されるのは農獣医学部創立されて以来初めてのことであり、歴史的にも留意すべき重大事項になります。しかも、我々桜水会々員でもあられることは心より慶び敬意を表し、応援したいものであります。学部発展のため、水産学科発展のために、正見の精神を失われず頑張っていただきたいと切望いたします。

漁業生産学研究室にフレッシュマン登場

長谷川英一助手の後任として、小島隆人さんを四月一日より迎えました。滋賀県出身、北海道大学水産学部卒業後、大学院修士課程を修了されました。一方、趣味ではボートを愛好され、北海道代表で国体にも参加されたスポーツマンで学生指導に、研究に活躍が期待されています。

日比谷京教授定年規定により非常勤講師となられる

東京大学を定年退官後、十年間日本大学の教授としてご指導いただきましたその間、学部の学務担当、学部次長の役職もはたされました。同窓生一同感謝申し上げます。九月からは引き続き非常勤講師として来校されます。

杉田治男（24期）専任講師日本水産学会奨励賞受賞

桜水会々員としては昭和五十一年に広瀬慶二（10期）＝現在水産庁養殖研部長）さんに次いで二人目になり、心よりお慶びを申し上げるとともに、今後も教育に、研究にご活躍されんことを望みます。

水産学会の当番校として日本水産学会（四月一日～四日）を添田秀男教授（3期）の大会委員長で行いました。また、日本魚病学会は、三月三十日～三十一日広瀬一美助教授（11期）を世話校として行いました。

桜水会からのお知らせとお願い

①昭和六十三年十月に名簿が発行され、終身会費納入者に配布いたします。

②終身会費納入について

終身会費一万円をご納入くださいますようお願い申し上げます。

三井銀行渋谷支店普通預金
○九七九三○一

なお、桜水会についてのお問い合わせは、日本大学桜水会事務局長・余座和征（11期）にお願いします。

東京都世田谷区下馬三―三四―一・日本大学農獣医学部漁業生産学研究室・○三―四一○―六○八○（内二二）（文責・広瀬一美）

桜水会の懇親会風景

学生の水族館見学実習

学生の定置網実習

工学会

工学会の近況報告
―役員会報告・役員改選―

昭和六十三年六月十一日、東京校舎において役員会が開催されました。

会則により、吉川宏一副会長が議長に選出され、議事が進行されました。議題は、①昭和六十二年度一般事業経過報告、②六十二年度決算報告③役員改選④六十三年度事業計画―総会ならびに三十五周年記念祝賀懇親会の開催（九月二十四日・日本大学会館）名簿発行、会報の発送、卒業記念品―⑤六十三年度予算案について、それぞれ報告・提案がなされ、審議の結果、満場一致で承認されました。また、本会の役員任期は三年であることから、役員改選について審議され、新しく第九期役員が選出されました。新役員は、次の通りです。

（敬称略）

会長・理事＝一川宏也（39年卒）▽副会長・理事＝吉川宏一（40）▽副会長・理事＝村田昇（41）▽庶務理事＝斎藤公三（43）▽会計理事＝前畑伸光（45）▽業務理事＝大川武実（49）▽理事＝岩川重雄（38）、戸崎紘一（39）、新藤薫（43）、酒川利男（47）、馬目雄一（51）、玉川雅仁（54）、図師健二（58）▽監査＝粕谷久義（39）、田中健夫（44）

役員会（6月11日東京校舎で）

◇農業工学科◇

O・B八木茂氏
―大学院特別講義講師に―

去る六月二十四日、前工学会会長（現相談役）の八木茂氏（昭和三十八年卒）が、大学院農業工学専攻の学外講師として招かれ、「飼料生産の機械化について」というテーマで講義されました。講義には、本学科の大学院生および学生二百名近くが出席され、大先輩の講義とあって熱心に聴講されました。現在、先生は農林水産省草地試験場栽培工学研究室長の要職につかれ、その開発研究に取り組んでおられます。

◇学科内の動向◇

◎人事

田原虎次教授（農業機械学研究室）は、昨年十一月十日をもちまして、満七十歳の定年を迎えられ退職されました。先生は、東京農工大学教授を経、昭和五十六年四月に日本大学教授として就任、以来約七年あまりにわたって、後進の指導にあたられました。この間、日本学術会議会員として、日本の学術振興・発展に努められ、さらに本学科においては五十六年四月から六十年三月まで、四年間にわたり、主任教授として学科発展のためにご尽力くださいました。在任中の一方ならぬご指導に対し、心から感謝するとともに、末永いご健康と今後のますますのご活躍をお祈り申し上げます。なお、先生には、現在も非常勤講師として講義をしていただいております。

田原先生の後任には、昭和六十一年四月から研究所教授としてみえておられます、山澤新吾教授が就任されました。先生は、筑波大学教授を歴任され、奉職中は農林工学系長の要職に就かれておりました。ご専門は、元来農業機械関係でありますが、最近は、バイオマス・エネルギーに関する研究を進められており、現在、この研究の第一人者であります。先生は本学部校友会のOBでもあり、今後本学科の教授として、若手研究者の育成など研究・教育両面において、学科の充実・発展のためにご尽力いただけるものと、一同ご期待しております。

◎教員の昇格

宮本眞吾助手（農業機械学研究室）と糸長浩司助手（農業建築学研究室）のお二方は、四月一日付けで専任講師に昇格されました。両先生の今後のますますの活躍が期待されます。

◎採用人事

昭和六十年四月から、本学科の副手として勤務されていました瀬戸昭子さんは、本年三月三十一日付で退職され、後任に高輪由紀さん（京浜女子大卒）が就任されました。なお、瀬戸昭子さんは、現在米国に二年間の予定で留学されております。

◆学科教員の海外出張状況◆

自石諦司助教授（農地整備学研究室）は、昭和六十三年度農獣医学部国際地域研究所海外派遣研究員として、四月十八日より六月十七日まで、「タイ国における農業生産基盤に関する研究」のため、タイへ出張され、多くの成果を上げて帰国されました。

河野英一助教授（地域保全工学研究室）は、昭和六十三年度校友会補助により、水田土壌生産力に関する国際シンポジウムに出席・発表のため、十二月三日から十八日までタイへ出張される予定です。

★世良田助教授―米国へ留学―

世良田和寛助教授（農業機械学研究室）は、昭和六十三年度日本大学中期海外派遣研究員として、六十四年三月より六ヵ月間、「農業機械における自動制御に関する研究」のため、ノースカロライナ州立大学へ留学する予定です。多くの研究成果が期待されます。

一年次の研修旅行

本年も、農業工学に係わる専門的分野の理解と親睦を図る目的で、教員十三名、新入生約百三十名が参加し、一泊二日の日程で静岡県下の農業水利事業、農業施設、農業機械・畜産施設、農業経営事情等を見学・研修して参りました。学生には、今後の専門科目の授業内容を理解するうえで、きわめて有意義な研修旅行であった。

1年次研修旅行（5月18日静岡県畜産試験場で）

三・四年対象に就職対策懇談会

昭和六十三年七月二日、午後一時より藤沢校舎において、本学科の三・四年生を対象に、就職対策懇談会が開催されました。

講師には、一川宏也氏【三十九年卒・工学会会長（株）地研社長】、森井尚志氏【四十二年卒・神奈川県庁農政部副技幹】、前畑伸光氏【四十五年卒・山田久就事務所・秘書】のOB・三氏が招かれ、それぞれご自分の体験と現在の立場から、就職活動に対しての心構えについて、約二時間にわたり講演されました。とくに、現在は以前に比べて職種が多彩になっているため企業選択に当っては、焦らず、自己の適性・性格に合うかどうかを十分検討し、しかも若者らしく生き生きと自己主張をし、悔いのない就職活動を行い、積極的に自己の将来に望むよう力説された。

＝工学会に思う＝

吉川　宏一
（工業会副会長・理事・五光建設㈱常務取締役）

工学会々員の皆様には、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

私も卒業して早いもので二十三年経ち、校友会のあり方、また我々が工学会のために何をすべきか、卒業して二十年も経つと、世の中のために何かをしなくては、と考える年になりました。

大学は「真理探究の場」であり「人間形成の場」であるわけで、とくに私立大学の役割は「建学の精神」を体として、具体的に個性と能力豊かな者に育て、社会のために役立つ人間を輩出していく教育の場であると考えます。それには、我々校友は大学・学科のために何をすべきかを、改めて考え直す時であると思います。それには、校友が社会に貢献していることが第一で「よい社会人となること」です。

現在、校友会の財政は新入生が納入する入会金と、卒業時の終身会費で細々と成り立っていますが、我々の手で何とか校友会が財政的に独立し、優秀な学生、研究者には奨学金制度を作るぐらいに発展させていくべきであり、二十一世紀には"学"の独立性を発揮して個性豊かな人間を造り、私学時代を築くべきだと思います。

工学会会員の皆様のご健勝とご活躍を心からお祈り申し上げます。

―事務局から―

工学会創立三十五年を記念し各卒業期の幹事の方々のご協力を得て、名簿を発行いたしました。皆様のお手許に届きましたら、ぜひ目を通していただき、勤務先の変更・誤り等、また住所不明になっている会員の方について知っているようでしたら、事務局までお知らせ下さい。

（文責石川重雄）

食品工学会

◇食品工学科◇

新理事三人を承認

総会と懇親会を開催

食品工学会の総会と懇親会が、昭和六十二年十一月七日（土曜日）日本大学会館で開催されました。

総会は、野田会長の挨拶に続き、議長、書記を選出、議題の審議に入りました。昭和六十一年度決算報告と昭和六十二年度の予算案が可決された後、新理事三名の承認が審議され、満場一致で可決されました。この結果、食品工学会の役員は別表のようになります。

懇親会は、来賓、校友を含め百名近いご出席をいただき、華やかな会となりました。露木英男教授を初め、庄川洋一学部校友会々長など多数のご祝辞をいただきました。日本大学大学院農学研究科講師小原哲二郎様の音頭による乾杯の後、懇談に入り、あちらこちらでなごやかな歓談が見受けられました。

ご出席いただいた皆様にお礼を申し上げるとともに、次回の総会にもお誘い合わせてご出席くださるようお願い申し上げます。

食品工学会役員
（○印は新理事）

会長　野田　義一（1期）
副会長　中村　清一（1期）
副会長・事務局長　青井　幸雄（4期）
理事　坂野　聡（1期）
鋤貫　駿（1期）
畑　孝典（6期）
荒井　安雄（7期）
奥村　廣佳（7期）
深谷　志成（8期）
茶谷　東人（9期）
千野　誠（10期）
廣川　隆一（14期）
森島　明弘（14期）
○竹永　章生（16期）
○千代間和之（16期）
○平田　明弘（19期）
会計監査　谷口　正章（9期）
高野　純（10期）

総会での審議風景

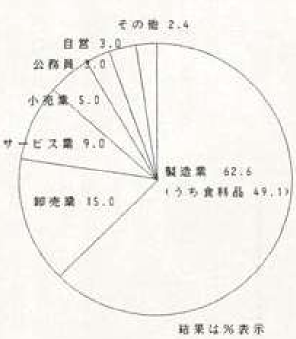
懇親会での楽しいアトラクション

好調な就職状況

本年三月、二十三期生百八十二名が卒業し、校友数は三千七百余名となりました。昭和六十二年度の就職状況は、例年通り、食料品製造業への就職が多くなっています。（図参照）

また、昭和六十三年度の求人状況も良好で、二十四期生には、恵まれた年となりそうです。ただ、内定状況から見ますと、昭和六十三年度は、食品に関連する業種への就職はやや減少するものと思われます。

昭和62年度就職状況



学科内の動向

☆露木先生が研究担当に

露木英男教授が、三月二十一日付をもって学部研究担当・研究委員会委員長に任命されました。また、四月一日付で、唯野哲男教授が学科主任に、佐藤寿教授が食品工学専攻（大学院）の主任にそれぞれ決まりました。

☆鈴木和威先生と荻原先生が昇格

本年四月、食品製造工学研究室の鈴木和威助教授が教授に、食品保蔵学研究室の荻原博和助手が専任講師にそれぞれ昇格されました。

鈴木教授は昭和五十年に、荻原専任講師は昭和五十五年に食品工学科に就任され、以来、研究に、学生教育にと邁進されておられました。心からお慶び申し上げるとともに、なお一層のご活躍を期待いたします。

☆副手の採用

食品分析学研究室の福嶋久美子副手が、本年三月三十一日付で退職され、その後任として、井上里砂さんが副手として採用されました。

井上副手は、食品工学科を本年卒業した二十三期生です。若いエネルギーの活躍を期待しております。

井上里砂副手

◆事務局から◆

学部校友会が、設立四十周年の記念事業として会員名簿を発行するにあたり、食品工学会でも、大幅な名簿の修正を行いました。しかしながら、住所の不明な方は年々増加しており、現在五百名近くの方が不明者扱いとなっております。ご友人で、校友会々報などが届かない方がおられましたら、食品工学会連絡事務局長あてまでご連絡くだされば幸いです。よろしくご協力をお願い申し上げます。

（文責・千野　誠）

三軒茶屋今昔

食品工学会理事（第7期生）　荒井　安雄

会員の皆様お元気でお過ごしですか。今年の夏は異状気象に見舞われ、さぞ大変な夏だったと思います。

さて、今年は昭和二十三年に農獣医学部校友会が発足し、早や四十年の歳に当ります。四十周年記念事業も数多く計画されると聞いています。その一つとして、藤沢校舎に新図書館の建設があるそうです。学部におきましては今年の四月より応用生物科学科、短期大学部では生活環境科が増設されました。近年の農獣医学部は藤沢校舎の充実、東京校舎の衣替え、研究室の拡充など、ここ数年、目を見張るものがあります。また最近の食品工学科には、東南アジアからの留学生や女子学生の多くなったことは、皆様周知のことと思います。

私も昭和四十七年に七期生として校友会に仲間入りをし、早や十六年の歳月が流れました。その間昭和五十三年より食品工学会理事および事務局会計として活動してまいりました。我が食品工学会は昭和三十七年に食品工学科が食品製造工学科として創立され、四十一年に第一期の卒業生が社会人としてスタートした年の十一月に設立されました。それから二十数年で三千七百名を越える大所帯となっています。

最近の卒業生の皆様には三軒茶屋はごく普通の町かも知れませんが、私や私以前の校友には三軒茶屋の様変りは目を見張るものがあるのではないでしょうか。渋谷から三軒茶屋まで玉電の早朝割引キップで通学したのがうそのように思われます。また、研究室のコンパを行うにしても店は限られており、仲間と飲む店も数は少なかったのですが、現在では数知れずあります。校友の皆様ぜひ一度母校のほうへ足を運ばれることを望んでおります。

終りにのぞみ、会員皆様のご健康とご活躍を心から祈ってやみません。

拓友会

◇拓植学科◇

久木田先生に慰労の花束

63年度総会と懇親会開く

昭和六十三年六月十一日、南国酒家において、拓友会六十三年度総会・懇親会が開催されました。

総会では六十二年度活動報告および決算報告、六十三年度活動計画ならびに予算案について、それぞれ審議され、可決されました。

引き続き懇親会に移り、門田定美農獣医学部長をはじめ、来賓の方々のご挨拶をいただきました。

この席上で、三月に学部長を退任された久木田賢志教授に対し、長年の慰労と感謝をこめて花束が贈呈されました。

先生は退任後、拓植学科に帰って来られ、研究室も以前と同じ六号館六階です。現在、日本大学教育制度研究所所長として活躍されております。

懇親会には多くの人びとが出席され、盛大ななかにも同窓のもつなごやかな雰囲気があふれていました。

出席の皆様にはお礼申し上げるとともに、来年度の会にはより多くの拓友が参加されることを期待しております。

久木田賢志教授に花束を贈呈

62年度の主な活動

一、拓友会四十周年記念祝賀会

二、「拓友会報」第十三号発行

三月に拓友会報第十三号を発行今回は「拓友の足跡」と題して卒業から現在までを記した拓友の投稿を掲載。海外で活躍する卒業生の姿が主な内容となった。

三、卒業記念品贈呈

学科内の動向

新任紹介

昭和六十三年四月から松浦京子さんが、副手として採用されました。松浦副手は、三月末に退職された三好真裕美副手の後任で、昭和六十二年度拓植学科卒業で、部屋は拓植第二研究室です。

研究室の移動

拓植学科の教育の三本の柱の一つ、語学の充実のためにLL教室が改修され、新しい設備が入ったことに伴ない、若干の研究室の移動がありました。

語学準備室に相塚専任講師、拓植語学第二研究室に陳助教授、経営第一研究室に谷口副手がそれぞれ移動しました。

（文責・緒方行広）

韓国社会の底に流れるもの

——韓国に留学して——

18期　井上　雅也

一九八七年八月より韓国ソウルの農村経済研究院にて日本大学海外派遣研究員として一年間韓国農業を研究する機会を得た。研究テーマは韓国農業の技術と生産力に関するものであるが、ここでは一年間のソウル生活を通して感じたことの一端を報告してみたい。

韓国に来てまず目につくことの一つは教会の多いことであろう。公式の発表によれば、信徒数は仏教徒が最も多く、次にキリスト教儒教の順となっている。しかし仏教寺院は李朝時代の排仏崇儒政策により山中に移され、都会ではめったにお目にかかれない。また韓国は昔より東方儀礼の国といわれており、儒教精神が生活に深く根づいている。したがって信徒としての数だけではこれらの関係を正しくとらえることはできない。韓国の人びとにとって儒教はあくまでも生活の規範なのである。そして人生の節目における様々な通過儀礼もまた儒教に源をおいているのである。

例えば韓国の最大の民族的行事に秋夕（シュウセキ）というのがある。これは旧暦八月十五日に行われ、先祖に感謝し、お祀りして子孫の幸福と繁栄を願うものである。この時には故郷へ帰る人びとの大移動が起こる。ちょうど日本のお盆のような雰囲気である。そしてこれは仏教徒、キリスト教徒にかかわらない。また還暦の祝い（華甲という）や、埋葬の仕方についても同様である。たとえば仏教徒であってもごく一部を除いては火葬をしない。風水思想により山の麓のなだらかな南斜面が利用され、一人一基の土葬である。そしてそのような場所は、農業的に見ると草地あるいは放牧場に適している所が大部分である。そのために国土の土地利用から見てかなり以前からその問題点が指摘され、埋葬法を改めよとの主張もある。しかしそれが国家の最高の機関で議論されることはない。選挙結果が目に見えているため、あえて火中の栗を拾おうとはしないからである。

こうして見ると、韓国における儒教はいわゆる宗教というよりも人々の日常生活の基盤を成しているといえる。民主化の時代といわれる時を迎えて、これらの面にもまた変化が起こるのであろうか。

親に対する孝、目上に対する礼儀正しさ、そして老人に対する尊敬と親切さなどは、いつまでも残しておいてほしいと思う。しかし決してプラス面ばかりではない。いわゆる権威主義の名残りを時々感じさせる場面のあったことも事実である。一例を挙げれば八七年の大統領選挙に関する新聞報道に「○○氏は××総裁を大統領候補に推戴」とあった。「指名」ではないのである。同じ漢字を使ってもニュアンスが異なる場合があるので四、五人の方に聞いてみたが、「推戴」の意味は日本と同じであった。

一事をもってすべてを判断することはできないが、肯定否定にかかわらず、こうした権威主義による影響は韓国を考える場合には無視し得ない要素である。今後、これらが韓国社会とどのようにかかわりそして将来どのように変貌してゆくのであろうか。

伝統と未来の共存する街ソウル

むつあい会

◇短期大学部農業科◇

農業科に59人の新入生

新設の生活環境科には106人が

短大農業科校友の皆様にはますますご健勝にてご活躍のことと存じます。本年も学部校友会会報を通して、農業科およびむつあい会の近況をお知らせします。

一、農業科の近況

農業科では去る三月に百八十名が卒業し、四月には五十九名の新入生を迎えました。昨年の会報でもお知らせしましたが、六十三年度より新学科の新設にともない農業科の定員が五割削減され、五十名になりました。

六十三年度の在籍学生数は一年次五十九名、二年次百十七名合計百七十六名（内女子四十九名）となっております。一方、新設された生活環境科には百六名の新入生がありました。

恒例の新入生の歓迎と、学園生活のオリエンテーションを兼ねての軽井沢研修旅行も、本年で七回目となりました。今回は両科合同で四月十三日～十五日の二泊三日で実施しました。教員二十三名、学生二百四十三名が参加し、有意義に無事終了することができました。

藤桜祭短大農業青年の会の売店風景

二、研究室の移転

農業科教員の所属する研究室は次のとおりです。

四号館五階
〈園芸第一研究室〉
鈴木基夫教授（観賞植物学）
寺沢輝雄専任講師（植物生態学）
〈園芸第二研究室〉
斉藤忠雄教授（園芸学Ⅰ〈蔬菜園芸学〉）
渡辺慶一専任講師（園芸学Ⅱ〈果樹園芸学〉）
〈環境生態学研究室〉
佐藤昌介教授（生物学）
浅野紘臣専任講師（植物生理学）
中嶋紀子副手（実験助手）
〈環境化学研究室〉
飯塚　統教授（土壌学）
長谷川里栄副手実験助手）
〈情報処理研究室〉
青山友紀助教授（情報処理論）
五号館三階
〈化学第一研究室〉
二瓶俊郎教授（農学実験）
〈社会学第二研究室〉
佐武武彦教授（農場実習）
以下は生活環境科の研究室
四号館五階
〈食品学研究室〉
鈴木たね子教授（食品栄養学）
大川いずみ専任講師（食品化学）
〈住居学研究室〉
池田二郎教授（緑地造園学）
飯尾潤助教授（住環境デザイン実習）、島田正文専任講師（コミュニティ計画論）
四号館三階
〈生活経済学研究室〉
小野信寿教授（生活経済学）新任
五号館二階
〈哲学研究室〉
小柏仁毅教授（哲学）
〈社会学研究室〉
川崎賢八子教授（社会学）新任
〈語学研究室〉
坂本都子専任講師（英語）新任
〈化学研究室〉
栗原　淳教授（化学）新任
〈体育学研究室〉
後藤雅弘専任講師（体育）

以上となっております。なお、生活環境科の研究室は、本年まで農業科の中に生活環境コースがありますので付記しました。

三、海外出張

斉藤忠雄教授は、日本大学海外派遣研究員として蔬菜栽培に関する調査のため、七月二十四日～八月二十五日まで、アメリカ・カリフォルニア大学に出張、青山友紀助教授は、海外派遣交換研究員として、蔬菜の移植機構と苗に関する研究のため、十二月一日～翌年一月三十一日までインドネシア農業省に出張します。

四、学位取得

斉藤忠雄教授は、六十二年十一月「温室メロン栽培における火山灰土壌の床土利用と果実の品質に関する研究」に対し、日本大学より農学博士の学位が授与されました。寺澤輝雄専任講師は、雑草の生態とくにメヒシバとスベリヒユについて研究され、六十二年九月「耕地雑草の環境適応性に関する生態学的研究」に対し、京都大学より農学博士の学位が授与されました。両先生には心からお祝い申し上げるとともに、農業科発展のために今後のご活躍を期待したいと思います。

五、卒業生の就職と進路状況

去る三月には百八十名の卒業が巣立って行きましたが、その進路状況は学部進学六十六名（三七%）農業大学校他各種学校四名（二・二%）、就職五十四名（三〇%）、自営十六名（九%）その他。主な就職先は公務員（七）、農協（四）、証券会社（四）、銀行（二）、種苗会社（二）、造園会社（二）、商事会社（二）、食品会社（二）、製造会社（一〇）その他となっております。

六、むつあい会の近況

昭和六十三年度の第一回の理事会は、二月六日（土）藤沢校舎第二会議室において開催され、昭和六十三年度の総会提出議案について審議されました。昭和六十三年度の総会は、三月二十六日（土）藤沢校舎第一会議室において開催され、議長に六期の藤原延教氏を選出し、昭和六十二年度の一般経過報告、事業報告および会計報告、六十三年度の事業計画および予算案について熱心に審議され、原案通り承認されました。総会終了後十五時より十六時三十分まで講演会を開催、講師は風の学校の中田正一先生、演題は「助けることは助けられること」で発展途上国に対する農業協力について講演されました。

講演会終了後は、第二食堂において来賓多数出席のもと、なごやかな雰囲気の中で懇親会を開催し、旧交を温めることができました。

七、事務局から

むつあい会では会員相互の親睦のために年一回の会報を発行し、会員のお手元に届けております。本年で十二回目となります。今後とも原稿執筆にご協力のほどお願いいたします。また、住所、氏名が変更になった方は、お手数でも事務局までご一報ください。

終身会費（壱万円）未納の方は「郵便振替口座　横浜〇―一七〇四九・藤沢市亀井野一八六六・日本大学農獣医学部藤沢校舎むつあい会」あてにお納めくださるよう併せてお願い申し上げます。

（文責・斎藤忠雄）

神奈川県支部農獣医部会

今年の総会は10月15日

神奈川県下に在住する農獣医学部ならびに短大農業科卒業の皆様お元気ですか。お伺い申し上げます。

お陰様で創立十周年記念総会を昨年十月五日に藤沢校舎食堂棟3階の大ホールで盛大に開催することができました。六時から始まった懇親会には、庄川農獣医学部校友会長、北村神奈川県支部長はじめ来賓校友百六十名の出席を得て開始されました。

宴会形式は立食で、料理は三ヵ所に山海の美味が並べられ、寿司・そば・コーヒーコーナーも設けられ、エレクトーンの演奏のうちに十五名の美人コンパニオンによって運ばれる料理や酒に舌鼓を打ち、久し振りに会った友人と旧交を温め、なごやかに会が盛り上りました。宴会たけなわのころ、一等賞品＝日立ホームベーカリ、二等＝東芝クリーナーをはじめとした空籤なしの大抽籤会が始まりました。コップ片手に抽籤の開票を見守り、当籤の数字が読み上げられるたびに歓声があがり、喜んだり、笑ったり、残念がっているうちに、二時間半がまたたく間に過ぎ、八時三十分に無事閉会しました。

今年の総会は、左記により開催されます。十一周年になりますが、昨年と同じように盛大に開催するために、幹事が一丸となって企画を推進しており、校友諸兄が多数お集りいただけるように願っております。抽籤会も昨年以上の規模にする予定です。ご来場をお待ちしています。

日時　十月十五日（土）
　総会　午後五時
　懇親会　午後六時
会場　藤沢校舎食堂棟3F
　大ホール
会費　八〇〇〇円

（佐々木記）

神奈川農獣医部会
会長・佐々木弘康

各種行事は順調に開催

大阪支部　今後は登山や一泊旅行も

昨年八月農獣医学部大阪校友会第十三回総会において、大きな業績を残された東照毅先生から会長を引き継ぎ、早くも一年が過ぎました。この間における活動状況を略記しますと

❶会則の変更　当学部会では活動の充実化を計るため、総会開催期間の延長が決議され、役員の任期に合わせて3年に一回の総会となり、その間における校友会員の会合は、毎年開催される全日本大学大阪校友会総会の会場となりました。本年は十一月五日に予定され若者参加費（卒業後三年間）の大幅割引きが決定されました。

❷月例理事会　総会開催期間の延長に由来する余剰エネルギーは理事会を毎月開いて情報の緊密化を計り、青年部活動の支援強化に充当されることになりました。

❸新設委員会　運営面は従来の伝統が継承されておりますが、若い会員の提案に基づき、総務委員会、広報委員会、企画委員会がそれぞれ新設され、各委員会の若いスタッフが事務局長と力を合せて歴史に残る業績を…とがんばっています。

❹会報の発行　〝農獣医学部大阪校友会々報〟を毎年4回以上発行し、行事参加者の増加に努めるとともに全校友への情報伝達に利用中。

❺役員OB会の開催　学部校友会創設以来の役員OB、先輩を囲んで現役有志が参集、ご指導を仰ぐことになりました。6月に開催された会合では、広い分野にわたって貴重なお話を聞くことができ誠に盛会でした。

❻行事進行状況　皆様の力強いご支援により、①会報の発行②月例理事会（二金会）③新年会④役員OB会⑤花火大会⑥学部在学生による大阪地区企業への見学会（中西助教授ご出席）⑦青年部研修会パーティーなどがいずれも順調に開催されました。今後、①登山・ハイキング②一泊旅行③ボーリング大会④ゴルフコンペ⑤ファミリーとの集い⑥忘年会などが企画されております。

末筆ながら常々お世話になっております庄川会長、校友会本部の皆様方に厚くお礼を申し上げ、全国校友会各位のご隆盛をお祈りいたします。

（大阪支部長・村田行夫）

校友会メンバーによる大台ヶ原ピクニックのスナップ

豊田支部長が三月に死去

秋田支部　総会を開催、支部長の選出を

秋田県下の農獣医学部校友の皆様お変りなくお過しのことと存じます。そして、各般にわたる厳しい情勢に対処して、旺盛なる活力でご活躍のことと思いますが、今後さらに一層の躍進を遂げられますよう念じております。

さて、県下校友の皆様、すでにご承知のことと存じますが、去る第一回総会において、本支部の支部長として選出された豊田先生が、不幸にして本年三月死去されました。先生は、私ども校友に対して大先輩として私どもの在るべき道を教示・指導された方であり、今さらながら、その訓えに対して感謝・感泣を禁じ得ないところであります。今は、校友の皆様とともに在天の霊に対して、ひたすら、安らかなれと祈るばかりであります。

このような不幸な事態で、現在わが支部は支部長不在になっておりまして、会の運営に不自由を来しております。なるべく早く、役員の方々とご相談の上で総会を開催し、支部長の選出を実現したいと考えているところであります。

皆様には、広範多岐のご活動にてご多忙のところではありましょうが、その際にはぜひご参加の上、ご協力賜わるようお願いいたします。（秋田県支部事務局・佐藤愛太郎）

小沢支部長が死去

山梨支部　新支部長は秋の総会で

山梨県下の農獣医学部卒業の皆様お変りありませんか。今年の夏は、昨年と違って、異常気象の上、低温続きで、気苦労の多い年であったと思います。農獣医学部校友会山梨県支部長の小沢寛氏が五十六歳の若さで六月二十三日に胃ガンで他界しました。小沢支部長は山梨支部創設に当り、日夜努力して、神奈川、大阪に次いで全国で三番目の支部を設立したことは、未だ記憶に新しいところでございます。小沢氏の功績をたたえるかのように、葬儀には多数の日大関係者が参列したことは、いうまでもありませんが、校友会本部よりも生花を贈りました。弔電は日大関係者を初め実に七十通におよびました。小沢氏の次男は、今年山梨医科大学に入学され、その前途を楽しみにしておられた矢先のことであり、まったく残念であったと思われます。山梨県支部は創設者を失って、未だ前途を模索中といったところですが、近日中には役員会を開いて、新支部長を選出してまいりたいと思っています。（八月二〇日（土）に第一回役員会をしました）山梨県支部は獣医科校友会を含んでおらず、この機会に検討して、新組織にしたいと思っています。

先日、東京新宿で行われた農獣医学部校友会四十周年に、事務局より一名出席させていただきましたが、その充実ぶりに驚き、参加された諸先輩、先生方の迫力に敬意を表した次第です。席上いただいた名簿を元に、支部でも早急に名簿作りをしてゆきたいと思っています。秋には総会まで開くつもりでいますので、各位のご協力をおねがいします。

なお、小沢氏は勲五等瑞宝章を授与されました。新支部長は総会により決定いたします。（事務局長・遠藤晴正）